

国語

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 別紙の解答用紙は、マークシート解答用紙と記述解答用紙とに分かれています。指定された解答欄をまちがえないように注意してください。マークシート解答欄は余りがでることがあります。
3. マークシート解答用紙は直接コンピューターにかかけますので、折りまげたり、よごしたりしないでください。また枠で囲まれた部分以外には記入しないでください。
4. マークシート解答用紙にマークするときは該当する○にはつきりとマークしてください。マークのしかた (良い例) ● (悪い例) ○ ⊗ ⊙ ⊖
(万年筆、ボールペンなどは使用してはいけません)
5. マークシート解答用紙に誤ってマークした場合には、消しゴムで跡が残らないようにしていねいに消し、消しかすをきれいに払ってください。
6. 試験開始後、マークシート解答用紙には氏名、受験番号を記入し、さらにその番号をマークしてください。なお、受験番号を記入するときにはマークシート解答用紙の「受験番号記入上の注意」をよく読んで、まちがいのないようにしてください。
7. 記述解答用紙には、氏名、受験番号を記入してください。
7. 試験問題はこの冊子の十一ページに記載されています。
8. 問題冊子の余白部分は、メモとして利用して構いません。
8. 情報数理学科のみ出願している方は、設問Ⅰと設問Ⅱ(A・B)を解答してください。設問Ⅲを解答する必要はなく、解答しても得点にはなりません。情報数理学科と他学科を併願している方は、設問Ⅲを含むすべての設問に解答してください。
9. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

教室であの子はいつも

1

母が学校の先生に会いに行くと、いつもそういわれて帰ってきた。どうして、ちゃんと先生のいうことを聞いてられないの？ 母はなさけなさそうに、わたしを叱った。

聞いてないわけじゃないのよ。わたしにも言い分はあった。聞いてると、そこからいっぱい考えがわいてきて、先生のいつてることがわからなくなるの。

そういうのを、脱線っていうのよ。お願いだから、脱線しないで。

脱線しないようにしよう。わたしは無駄な決心をした。

つめたい空気のなかを汽車は走っていた。遠い雪の斜面に黒く凍りついたような家が一軒見えたり、鉄橋の枕木のあいだから覗いている川の水面に細かい波がちぎれていたり、黄色い電灯の光に照らされた駅舎がさつとうしろに流れたりした。通いなれた沿線であるはずなのに、いったいそれがどのあたりだったか、記憶をたぐりよせようにも、すべてが闇に沈み^{よど}んだようになって思い出せない。夜行列車に乗るようになったのは、戦争が終わった十六歳の秋、家族をはなれて東京で学生生活を送るようになってからだから、それはたぶん一九四七、八年の頃だったろう。それでもまだ、特急とか急行とかというのではなく鈍行の夜行列車で、堅い座席で寒さに目がさめるたびに、ああ、あと何時間ぐらいすれば東京に着くのだろうと、窓の外を過ぎてゆく電柱を、一本、一本、数えたりした。一千本になったら、東京。

2

を自分にいいきかせては、また眠りに落ちる。

ぐっすり眠っていて、ふと目がさめると列車はまったく見おぼえない、山を背にした小さな駅にとまっていた。停車はして

いても、あたりに駅員がいるわけでも、アナウンスが聞こえるわけでもなくて、なにもかもが眠りこけた風景のなかで、近くに滝でもあるのか、高いところから水の落ちる音だけが暗いなかにひびいていた。

どれぐらい停車していたのだろう。やがて、かん高い汽笛が前方にひびいて、列車ぜんたいにながいしゃっくりに似た軋^{きし}みが伝わると、ゆっくり動き出した。黒い瓦屋根の駅舎のゆがんだような板壁が遠のいていく。列車が速度をはやめるにつれて、線路わきの電柱の飛ぶ速度がせわしくなる。そのとき、まったく唐突に、ひとつの

3

がまるで季節はずれの雪のように降ってきてわたしの意識をゆさぶった。

《この列車は、ひとつひとつの駅でひろわれるのを待っている「時間」を、いわば集金人のようにひとつひとつ集めながら走っているのだ。列車が「時間」にしたがって走っているのではなくて。

ひろわれた「時間」は、列車のおかげではじめてひとつのつながった流れになる。いっぽう、列車にひろいそこなわれた「時間」は、あちこちの駅で孤立して朝を迎え、そのまま、摘^とまれないキノコみたいにくさってしまふ。

列車がこの仕事をするのは、夜だけだ。夜になると、「時間」はつめたい流れ星のように空から降ってきて、駅で列車に連れ去られるのを待っている》

一連のとりとめないセンテンスがつぎつぎにあたまに浮かんでは消えていった。もう旅が退屈ではなかった。暖房のきかない列車も気にならなかった。

その夜、雪のなかの小さな駅舎の板壁に目をこらしていたわたしのところに、暗い雪片のように空から降ってきた

3

の束は、日本の復興がすすむにつれて、夜行列車に乗るようなことがだんだんと少なくなっても、あのころの旅の記憶といっしょにふつつつとわたしのなかに生きつづけた。

何年か過ぎて、わたしはバリにいた。大学の夏休みがはじまったばかりのある夕方、わたしはリヨン駅からローマ行きの夜行列車に乗りこんだ。一年まえ、日本からの船がジェノワの港に着いたとき、道ばたでたえず耳に飛びこんできたイタリア語が、あの町を覆っていた嘘のように透明な空の記憶と重なって忘れられなかったし、凍った北国の都会に自分を合わせられなくて、太陽がオレンジの色に燦^{きらめ}く国に帰りたかった。いつかその国のことを、自分のものにしてしまいたかった。

しばらくお別れだからと夕食をともにした友人に送られてローマ行きの列車の三等のコンパートメントに入ると、予約席の番号をもういちど確かめて、わたしは窓際の隅の席に荷物をおいた。車掌がばたんばたん大きな音をたてて入り口のドアを閉める音が聞こえても、コンパートメントに相客らしい人物は乗ってこなくて、わたしはひとりで旅ができることにほっとしていた。

〔中略〕

六月の終りというのに、アルプスを越える列車の客室にはうっすらと暖房が入っていた。窓のそとはただ暗いだけで、平野を走っているのか丘陵地なのかさえも見当がつかないまま、一本、また一本とうしろに飛んで行く電柱だけが、この世で自分の位置をはかるたったひとつの手がかりのように思えた。そのとき、もういちど、あの遠いころの列車の夜の記憶がもどった。

《夜、駅ごとに待っている「時間」の断片を、夜行列車はたんねんに拾い集めてはそれらをひとつにつなぎあわせる》

脱線、という言葉があたまに浮かんで、母はどうしているだろうと思った。自分はほんとうに脱線が好きなんだろうか。それから、こう思った。わたしのは、脱線というのとはすこしちがう。線路に沿って走らないと、思考と思考はつながらない。それくらいなら、わたしにだってわかる。つなげることがまず大切なのだということくらいは。でも、どれがいったい線路なのか。

「時間」、とあのころ言葉の意味を深く考えることもなしに呼んでいたものが「記憶」と変換可能かもしれないとまでは、まだ考えついていなかった。思考、あるいは五官が感じていたことを、「線路に沿って」ひとまとめの文章につくりあげるまでには、

な手習いが必要なことも、暗闇をいくつも通りぬけ、記憶の原石を絶望的なほどくりかえし磨きあげること、燦々^{さんさん}と光を放つものに仕立てあげなければならないことも、まだわからないで、わたしはあせってばかりいた。

ジュネーヴ、というアナウンスが聞こえたように思った。駅の名を知らせるアナウンスというよりは、なにかに驚いて人が発する短くてするどい叫びのようだった。ずっしりと重たい窓を両手でもち上げてプラットフォームをのぞいてみたが、柱のあいだから弱々しい朝の光が斜めに射しているだけで、駅はほとんど無人に見えた。三つの国の言葉が話される国だ、そう思って、私はがらんとした朝の駅を見渡していた。⁵

《「時間」が駅で待っていて、夜行列車はそれを集めてひとつにつなげるために、駅から駅へ旅をつづけている》

もともと、ひとつのまじしいイメージから滲み出たにすぎない言葉の束なのに、それは、たとえば成人のまなざしをそなえて生まれてきた赤ん坊のように、ごく最初からしつかりした実在をもってわたしのところにやって来たものだから、私はマヌケなメンドリのように両手でその言葉の束だけを大切に不器用に抱えて、あたためながら歩きつづけた。

「線路に沿ってつなげる」という縦糸は、それ自体、ものがたる人間にとって不可欠だ。だが同時に、それだけでは、いい物語は成立しない。いろいろ異質な要素を、となり町の山車^{だし}のようにそのなかに招き入れて物語を人間化しなければならない。ヒトを引合いにもってこなくてはならない。脱線⁶というのではなく、縦糸⁶の論理を、具体性、あるいは人間の世界という横糸につなげることが大切なのだ。たいていの人が、ごく若いとき理解してしまうそんなことを私がわかるようになったのは、老い、と人々が呼ぶ年齢に到ってからだった。みな店をばたばた閉めはじめる夜の街を、息せききって走りまわっている自分を想像することがある。⁷

そんなとき、あの山間の小さな駅の暗さと、ジュネーヴ！ という、短い、鋭い叫びが記憶の底でうずく。

問一 空欄1に入る最も適切な表現を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート a)。

- ① 心を砕いています
- ② 耳をふさいでいます
- ③ 気を立たせています
- ④ 耳を澄ましています
- ⑤ 気を散らしています

問二 空欄②に入る最も適切な表現を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート**b**)。

- ① 淡い期待
- ② 途方もない事
- ③ 他愛ない事
- ④ 支離滅裂な事
- ⑤ 根拠ある数字

問三 二つの空欄3に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート

- ① 嘘
- ② 思い出
- ③ 考え
- ④ 恐れ
- ⑤ 予感

問四 空欄4に当てはまるものとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシートd)。

- ① 緻密
- ② 得意
- ③ 過酷
- ④ 地道
- ⑤ 特異

問五 傍線部の「がらんとした」の意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシ

$$\begin{array}{c} \text{ト} \\ \boxed{\text{e}} \\ \text{)} \\ \text{O} \end{array}$$

- ① 悠々として穏やかなさま
② 重々しく荘厳なさま
③ 人や物の気配が漂うさま
④ 人や物がなく寂しいさま
⑤ 清々しく静かなさま

問六 傍線部6「縦糸の論理」とは、具体的にどのようなものか。もつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート f)。

答欄はマークシート f)。

- ① 作者の想像力や感情の揺らぎを尊重し、個人的な感慨や経験を物語の中心に据える表現方法。
- ② 表現される内容のすべてを現実の事実在即して描写することで、物語に整合性を持たせる表現方法。
- ③ かつて母に咎められた「脱線」を避けるために、感情や人間性に捕われずに物語を展開する表現方法。
- ④ 複数の視点や体験を描き出し、多様な価値観を物語に取り入れる柔軟な表現方法。
- ⑤ 断片的な記憶や思考を筋道を立てて整理することにより、物語を成立させる表現方法。

問七 傍線部7「みなが店をばたばた閉めはじめる夜の街を、息せききって走りまわっている自分を想像することがある」という一文には、筆者のどのような心情が表されているか。記述解答用紙17の指定に即して、7Aは五字以上十字以内、7Bは三字以内で記入せよ(句読点も一字と数える)。

人生の

7 A

状況のなかで、筆者が

7 B

を感じていることが表されている。

Ⅱ A 次の1～3の()内のカタカナを漢字に直し、4～6の()

()内の漢字の読みをひらがなで記せ(解答欄は記述解答)

用紙Ⅱ A 1～6)。

- 1 資料を使って(ビサイ)な点まで説明する。
- 2 日記には、彼の心の(キセキ)が刻まれていた。
- 3 この映画は(フキユウ)の名作として今なお愛されている。
- 4 相手を傷つけずに(叱責)することは難しい。
- 5 西に東に(奔走)する。
- 6 この物語は代々(口伝)によって受け継がれてきた。

ⅡB 次の7～10の（ ）内のカタカナと同じ漢字が当てはまるものを①～⑤からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄

はマークシート

g

 ～

j

 ）。

7 今期の事業計画は多（キ）にわたる。

- | | | | | |
|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| ① 「キ」概を示す | ② 逆転の「キ」会 | ③ 大「キ」晩成 | ④ 「キ」知の事実 | ⑤ 人生の「キ」路 |
|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|

8 その発言が、事件解決の（タン）緒となった。

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| ① 出力「タン」子 | ② 「タン」気 | ③ 「タン」独 | ④ 「タン」検 | ⑤ 「タン」精 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|

9 議題から外れた発言があったことで、会議の進行に支（ショウ）が生じた。

- | | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|------------|
| ① 「ショウ」進 | ② 「ショウ」壁 | ③ 「ショウ」待客 | ④ 「ショウ」費 | ⑤ 「ショウ」認欲求 |
|----------|----------|-----------|----------|------------|

10 発生した問題に対して、適切な（ソ）置を講ずる。

- | | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| ① 「ソ」織運営 | ② 「ソ」末に扱う | ③ 学童「ソ」開 | ④ 仮説の「ソ」定 | ⑤ 建物の基「ソ」 |
|----------|-----------|----------|-----------|-----------|

Ⅲ

琴の名手である華陽公主(唐の皇帝の妹)は、訪ねてきた遣唐使の男に請われ、仙人から伝授された奏法を伝える。公主と男は互いに恋心をいだくが、遠い日本での再会を約束して別れる。次の文章を読み、後の問に答えよ。

公主は、宮に帰り給ひて思し続けるに、さまざま憂かりける契りはさらにも言はず、わが心もかうながら、この世に長らへば、必ず憂き名をとどむべき身なりけりと思すに、よろづに思ひ閉ぢめつれば、暗き夜の空を一人眺めて、心の行く限り、御手に任せて弾き澄まし給へる琴の音、御垣の松風に通ひ合ひて、言ふよしなくもの悲しきに、稲妻しきりにして、雲のたたずまひただならねば、

「1 のさやかに照らす雲の上にわが思ふことは空に見ゆらし

憂き身は今宵に限るとも、商山の月のもとにして伝へし琴の音に、契り絶えずは、波のほか、雲のよそに身を代へ、あるいは天となり、あるいは人となるとも、この琴、必ず忘れず、尋ね来」とのたまひて、玉の簾の半ばを巻き上げて、琴を押し出でて、白き扇の御傍らなるしてうち扇ぎ給へるに、琴の琴、空に上りて、遙かに飛び去り4 を、つくづくとうち眺めて、涙のこぼるるを、扇に紛らはして、傍ら臥し給へるさま、灯籠の灯の光のほのかなる火影に、似る物なくめでたきを、やがて、露の消えやくように言ふかひなく見え給へば、御前に候ふ限り、騒ぎ立ちて泣きとよむに、帝も、聞こし召しつけて、いと言ふかひなくくちをしきことを思し嘆く。

明けゆくままに、今は限りの御さまなれば、言ふかひなくて、まづ九重を出だし奉らんと騒ぐ。

注 九重 中国の王城の門が九つあったことから、宮中を意味する。

(『松浦宮物語』より)

問一 空欄1に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート k)。

- ① 雨だれ ② 稲妻 ③ 灯籠 ④ 月かげ ⑤ 火影

問二 傍線部2「思ふこと」は、前の段落を受けた表現である。その内容を、記述解答用紙Ⅲ2の指定に即して、それぞれ五字以内の現代語で書け。

このような想いを抱いたまま 2 A いたら、きっと 2 B が残ってしまう。

問三 傍線部3 A「限る」、3 B「限り」について。何が「限」られるのか、もっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート 1)。

- ① 雨 ② 命 ③ 芸術 ④ 契り ⑤ 涙

問四 空欄4に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート m)。

- ① な ② に ③ ぬ ④ ぬる ⑤ ぬれ

問五 傍線部5「傍ら臥し給へる」の意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート n)。

- ① 赤ん坊に添い寝する
② うつ伏せになる
③ 琴を抱いて横になる
④ 夫の隣に倒れこむ
⑤ 脇を下にして横になる

問六 三つの傍線部6「かひ」を漢字で書く場合、もつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

- ① 会 ② 回 ③ 界 ④ 可否 ⑤ 甲斐

問七 傍線部7A「見え給へば」、7B「騒ぎ立ちて泣きとよむ」、7C「思し嘆く」の動作主の組み合わせとしてもつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシートP)。

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| ① | 7 A 公主 | 7 B 皇帝 | 7 C 側仕え |
| ② | 7 A 公主 | 7 B 側仕え | 7 C 皇帝 |
| ③ | 7 A 側仕え | 7 B 公主 | 7 C 皇帝 |
| ④ | 7 A 側仕え | 7 B 皇帝 | 7 C 遣唐使 |
| ⑤ | 7 A 皇帝 | 7 B 公主 | 7 C 側仕え |